



# 濃厚な魚探反応に高まる期待 沼津久料のコマセダイが熱い

10月29日、駿河湾沼津久料港の魚磯丸へ出かけた。自宅から近い船宿の一つだが、おまごぶさたしてしまい、およそ3年ぶりの訪問となった。狙いは魚磯丸の看板でもあるマダイ。豊富な乗合メニューの中でも、唯一周年の釣り



▲今秋の沼津久料沖は1キロ前後主体に4キロオーバーの大ダイが頻繁に上がっている

物として確立されているうえ、午前、午後、一日2回出船している。午前船の集合時刻の5時半には5人のお客さんが顔を出す。釣り座はクジ引きで決まるので、必要以上の早起きは不要だ。船宿と港は道路を挟

## 港前が好ポイント

準備が整ったところで、松崎英信船長の操船で岸壁を離れる。

最初のポイントは航程5分とからない港の前。平根と呼ばれる釣り場で、魚磯丸のメインフィールドでもある。釣り開始は6時半。水深40メートル、指示ダナは25メートル。

まずは左トモにアタリがあり、小型ながらもマダイが取り込まれる。5分後、今度は右トモで竿が曲がる。慎重なフアイトで海面を割ったのは、1.5キロのマダイ。さらに5分後、またもや左トモにアタリ。今度は少し型

**知得! Tips and Tricks**

### サバフグの猛攻に備える

この日、大釣りとはいえ結果に終わったのは、潮が動かなかつたせいもあるが、水深70メートルあたりに群れているサバフグの影響も少なからずある。サバフグの大量発生は全国的なものらしく、ここ沼津エリアも例外ではない。ハリスをかじられるだけならまだいい。道糸を切られれば当然テンピンから下が海の藻屑と消える。僚船の中には、道糸や仕掛けが次々となくなったため、早揚がりや余儀なくされるケースもあったという。この日は水深45メートル以浅のポイントに攻めたのでフグの被害はなかったが、深みてれば惨劇は避けられなかったはず。今後は水温の低下に伴って、深場を攻めざるを得ないケースもあるだろう。そんなときに備え、予備のリールのほか、仕掛け、ピン、テンピンなどもたっぷり用意しておきたい。

▶当日はフグがいらない場所を攻めた

がいいようだ。しかし、海面下に見えたのはピンクではなく白。40センチオーバーのウスバハギだった。隣の貸し竿氏も同サイズのウスバハギを取り込む。エサ取りたちの動きも活発になってきたようだ。30分後、右トモで2枚目となる1.2キロ級が上がったところで朝の好タイムが終了。「反応はスゴいんだけどなあ」と船長はなげくが、こればかりは仕方がない。潮の動きが鈍いのが大きな要因だが、港の目の前のポイントで毎日午前、午後と攻めることで、魚が少々スレ気味

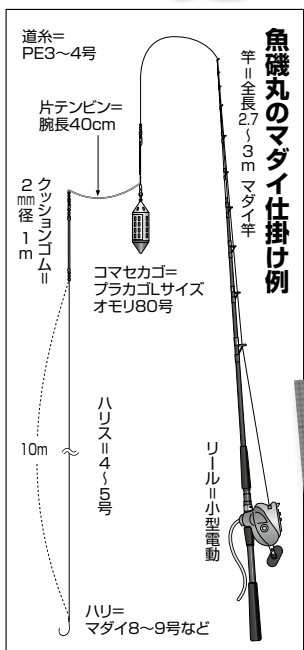
なのは否めない。伊豆半島の西側は全般に西寄りの風に弱く、とくに冬場は強烈な南西風が何日も吹き続けることがよくある。しかし、伊豆半島の地図を見てほしい。ちょうどブドウの房のような形をしていて、この肩の部分に位置する沼津久料地区は、南西風を避けられるのだ。また、駿河湾の最奥ということで、台風以外なら出船可能といわれるほどシケにはめっぽう強い。連日休みなくたたかれることで、魚の警戒心も高まっているわけだが、スレてはいて

も、決して荒れてはいない。なぜなら、港と平根の間には大きな白いブイが1列に並んでいて、この内側が禁漁エリアになっている。この多くの魚類を育む聖域からの供給によって、濃い魚影が保たれているのだ。したがって、条件さえそろえば活発に口を使うはず。

ここで粘り続けるのも一手だが、限られた時間にある程度の結果を残さなければならぬのも船長の宿命。この日は貸し竿のビギナーさんが2人いたこともあり、平根をあきらめて東の長根に移動となる。

## 痛恨のバラシ

水深は45メートル。すぐに右トモにいいアタリ。キユキユーンと鋭い引きを見たのは1キロ級のイナダ。ここもマダイのポイントだ



**Tackle Guide**

内湾の釣りとはいえ、9月には7.3キロ、その後も4キロ級がコンスタントに上がっているから、ハリスは4号より落とさないほうが良いという。水深も浅いため、深場と違って引き込みも強く、一気に走られることもある。

が、このところイナダがよく交じるため、土産確保の意味もあるようだ。そんな思惑は見事に当たり、しばらくは船中入れ掛かりが続く。常連さんの中にはマダイしか眼中にないといった人もいるが、この時期のイナダは脂も乗り、引きも小気味いいのでなかなか楽しい。また、同じポイントでマダイも食ってくるから油断は禁物。この日も1.5キロ級を船中3枚を追加した。惜しむらくは左胴の間のバラシ。強烈な引き込みにし

らく耐えていたが、急にフワッと軽くなり、回収したらテンピンが折れて、ビシと仕掛けをロストする結末。もちろん大ダイかどうかは定かでないが、なんとも後を引きずるシーンだった。沖揚がり11時。釣果は0.5~1.5キロ級のマダイが一人0~2枚で船中6枚。イナダ多数、ほかにサバ、ソウダ、イサキなどが交じった。平根の反応がすごかったのでタマヅメに期待できるとの船長の言葉に居残りを決める。午後の部はお客さん5人と13時に出船。操船は松崎船長から、ベテランの久保田靖船長に交代し、気分も一新。期待の平根は最後に取って置くことにして、まずは長根

に向かう。午前が続く、イナダの入れ掛かりの後、1キロ級を主体にマダイもポツポツと上がる。アタリが遠のいたタイミングで、今度はワラサ根に移動。ここでもマダイを2枚追加したところで、最後の砦、平根へと走る。日も大きく傾き、あと30分もしれば、山の向こうに隠れてしまおうだろう。探見丸のモニターには、体長50センチオーバーを表す縞模様の魚マークが底のほうにいくつも映し出されている。が、しかし、船上の照明が灯るまでコマセを振り続けた



ものの、潮は一向に流れず、右トモで小型が1枚上がっただけで17時半に無念の沖揚がりとなる。午後は0.7~1.8キロが一人0~3枚で船中6枚と午前と似たりよつたりの釣果に終わる。魚がいるのは間違いないので、今後の条件に恵まれれば、思わぬ大釣りに遭遇できるに違いない。

▼推奨仕掛けはハリス4~5号 10メートルの一本通し



**船宿 information**

駿河湾沼津久料 魚磯丸

☎055-942-3230 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=マダイ乗合午前・午後船 一人1万円 (付けエサ、コマセ、氷付き)

▶備考=予約乗合、午前船5時半、午後船12時集合。ヒラメ&ハタハも

松崎 英信船長